

会報 たま

公益社団法人 日本山岳会
東京多摩支部
2024年5月10日発行
第56号

「春の集い」 4年ぶりに開催される

総務委員会 辻正人

東京多摩支部の懇親会「春の集い」が、3月20日(祝)12時から聖蹟桜ヶ丘の京王クラブで開催された。支部懇親会は2020年開催以降コロナ禍で中断していたが、4年ぶりに55人が参加しての開催だった。この日、最近入会した人や若い人と、支部を立ち上げ支えてきた年配者との交流の場が復活した。冒頭、野口支部長は再開を喜ぶとともに、東京多摩支部を東京支部に拡大する案が本部から提示され、これは実現しなかったが、東京多摩支部の活発な活動が、このような提案をもたらしたと述べた。また、ここに集まった人々は山好きということが共通している、これからも安全に山を楽しんで頂くとともに、支部活動へ協力してほしいと締めくくった。近藤事務局長からは、山行、登山教室、自然保護活動、古道調査など各方面で活発な活動が行われていること、3月に修了式を終えた登山教室の講習生から入会者が期待される見通しが示された。続いて、竹中監事は交流の場が復活した意義は大きいと述べ、乾杯の音頭をとり、歓談へと移った。

日頃、知ってはいても言葉を交わす機会が少ない会員、初めて会う会員同士が、この機会をとらえて歓談する様子が会場全体で見られた。思わぬ発見や、一緒に活動できそうな場を見つけては笑顔が広がった。仲間の登山服姿は見慣れているが、ジャケットや普段着を着ているのは見慣れていないので、新鮮だった。



開会の挨拶をする
野口支部長



終盤には「山の歌を歌う会」のメンバーが勢揃いし4曲を披露、会場の参加者も歌詞カードを見ながら一緒に歌い多いに盛り上がり、支部の活動の幅広さを実感することができた。

(写真/辻正人)

歓談して、食べて、飲んで、歌って、写真撮影



目次

1. 総務委 春の集い	6. 定例1月 愛鷹山	13. 中級プレスクール2月 赤城山
2. 安全対策委 安全登山講演会	6. ミニレポ キリマンジャロ	13. 中級プレスクール3月 上州武尊
2. 安全対策委 上級救命講習会	7. 定例2月 北横岳	14. 低山を楽しむ会1月 高尾山
3. 奥多摩BC 初詣ハイキングと懇親会	8. 定例2月 幕岩	14. 低山を楽しむ会2月 渋沢丘陵
3. 多摩サロン 創立14周年記念集会	8. ミニレポ 八甲田山スキー	15. エッセー「マッキンレー」(岡田陽子氏)
4. 山岳古道PT 武州御岳山調査終了	9. 定例3月 硫黄岳	16. 多摩支部の人々「竹中彰氏」
4. 平日1月 三ノ塔	10. 登山教室1月 石割山	17. インフォメーション/訃報
5. 平日2月 興因寺山	11. 登山教室2月 入笠山	18~19. 議事録&表
5. 平日3月 大福山	12. 登山教室3月 修了式/三ツ峠山	20. カレンダー、総会案内、編集後記他

<安全対策委員会>

講演会「安全登山のために ～山岳救助の現場から～」

吉川三鈴



長野県警山岳遭難救助隊の副隊長の河西氏が熱心に解説

安全対策委員会は2月29日(木)に立川市女性総合センターアームにて、長野県警察山岳遭難救助隊から講師をお招きし、表記講演会を開催した。講師は同隊副隊長、河西斎哲(よしのり)氏。新聞などで案内されたこともあり、参加者は一般の方39名を含み、58名と盛況だった。

まず河西氏は長野県内での山岳遭難の発生状況を説明した。様々な統計的データが呈示されたが、特に印象的なのは長野での遭難者のトップは東京都民とのことだ。2位は長野県民だが、いかに都民が長野県警にお世話になっているかと思うと恐縮至極だった。

次いで具体的な遭難事例の話や実際の遭難現場の動画が上映された。参加できなかった方もこのビデオは、本救助隊のHPや『X』で見ることができるので、是非、見てほしい。河西氏の解説も加えられ、臨場感のある救助現場を実際にまのあたりにすることができた。

安全登山のためには入山前に地図を熟読すること、装備の使い方を習得すること、モバイルバッテリーは必携などのアドバイスの他、入山数日前からしっかり炭水化物を摂ること、日頃からのトレーニングが必要なこと、山専門サイトで天気予報情報を得ることなどにも言及した。

講演後、『長野県警山岳遭難救助隊』のロゴ入り手拭いが参加者に配られ、とてもよい記念になった。

(写真/石井秀典)



登山計画書と保険加入の呼び掛け

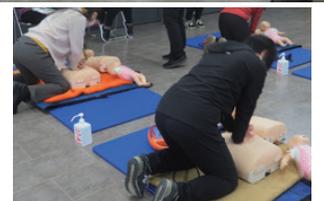
<安全対策委員会>

上級救命講習会が実施される

石井秀典

3月3日(土)、東京消防庁による上級救命講習が奥多摩消防署にて実施された。受講者7名(石川、鹿島、勝又、高岡、中島、橋本、古谷)は、JR奥多摩駅前に集合し、安全対策委員の引率で奥多摩BCの前を通過して奥多摩消防署へ行った。

講習は9時から開始された。講師は東京防災救急協会の専任講師2名だった。まずは上級救命講習テキストに基づき、応急手当実施の重要性を映像で説明。実技講習は人形を使用して心肺蘇生、AED使用方法を小児等対応も含めて12時まで実施した。午後は気道異物除去方法や三角巾を使っての止血方法、外傷手当を行う。骨折、熱傷、熱中症、アナフィラキシー、低体温症などの対応はテキストで説明があり、傷病者管理、搬送法はコロナ感染対策のために映像で説明された。応急手当実施に係る法律対応について、善意で実施した行為は責任を問われないとの説明があった。



人形を使い心肺蘇生法の実技

最後に簡単なテストがあり全員合格した。更にその後、受講生の熱心な要望により「傷病者発見から心肺蘇生、AED使用の一貫した救命活動」の実技復習を実施して15時40分に終了した。受講生には後日、上級救命技能認定証(3年間有効)が授与される。

(写真/石井秀典)

＜奥多摩 BC 運営委員会＞

奥多摩 BC 開きと初詣ハイキングと新年懇親会

石井秀典

1月13日に奥多摩BC運営委員会主催で表記ハイキングと懇親会を行った。石井、小尾、小嶋、辻橋、富澤、西村(章)、松田、宮崎(紘)、山下(肇)の9名がハイキングと懇親会、石塚、木村、坂井(浩)、中村(敦)、原、本多、山内、南氷川自治会役員2名の9名が懇親会のみ、それぞれ参加した。

10:15にハイキング参加者が奥多摩BCを出発し、周辺を一周するコースへ向かった。まずは奥多摩第一の古社である奥氷川神社に参拝した。奥多摩駅前通りから北氷川橋を渡って栃久保の「根元神社」へ。祭神は医薬等の神少彦名命で、健康を祈願した。神社から日原街道西側山腹の道を歩き大杉が並ぶ南氷川の「元巢稲荷社」へ。更に20分程歩いて石尾根末端の「羽黒三田神社」で支部員の安全登山を祈願した。蠟梅の花が咲く奥多摩むかし道を経由して、12:30に奥多摩BCに到着した。

奥多摩BCでは手料理が整っていた。木村氏による乾杯で懇親会を開始。盛り沢山の料理が並んで会話も弾んできたので、皆に自己紹介を兼ねて活動を話して貰った。興味深い話もあり、地元自治会の方には日本山岳会を更に知って頂き、親交もできたと思われ、会員同士の親睦も深まった。最後においしいお雑煮を食べ、本多氏の指揮のもと、多摩三本締めで無事に終わり、15:30にお開きにした。(写真/石井秀典、松田慎一郎)



4軒の神社を巡って初詣



お料理に、お酒に、会話も弾んで、親睦も深まる新年会



見事なお節

＜多摩サロン＞

東京多摩支部設立14周年記念集会開催される

竹中 彰

2月20日に多摩サロンを中心とするメンバーが、支部創立14周年を記念して八王子公民館にて集会を開催し、老若を交えた61名が参加した。当日、創立当時から神崎氏が撮り溜めた映像を楽しみながら懇談した。今まで、同好会「山の唄を歌う会」などで映像を映写しながら山の唄を歌っていたが、今回、記念集会でその映像を楽しむことになった。石井氏の司会で開会し、竹中の開会のことばに続き、2018年新春懇談会の画像を流した。続いて、神崎氏の基調トークで、2010年創立総会に至る前史、設立後の全国支部懇談会(実行委員長酒井副支部長)、都県境分境嶺踏査プロジェクト(責任者長瀬会員)、登山教室開講(酒井元副支部長)などのビッグイベントを、それぞれ語った。

クレストホテルでの設立総会や10周年記念パーティー等が伴奏入り映像で披露され、10歳余若い頃の皆の姿に懐かしく画面に見入った。山岳会の槇、松方、三田、西堀らの山岳会の先人のポートレートも紹介された。支部員として共通の思いを語り合い、懇談する場も会が成長を続ける上で有効と実感した。

(写真/石井秀典)



〈 120周年記念山岳古道調査 PT 〉

武州御嶽山登拝道の ルート踏査終了

石井秀典

武州御嶽山（標高929m）は関東の霊山として中世から修験道の拠点で、御嶽蔵王権現の名のもとに多くの権力者や庶民に信仰されてきた。江戸時代には幕府の庇護もあり、一般庶民の御嶽詣が盛んになり関東一円から参拝者が訪れた。参拝者は各方面からいろいろな道を歩き御嶽山に辿り着いた。その意味では御嶽山に通じる道は全てが登拝道だと言う。

今回の調査は、古道の確かな歴史文化等情報、特に史跡、文献、地元情報等の確認が必要であることから、御嶽神社関係者と地元有識者の協力と現地調査を行い「1.北御坂道、2.南御坂道、3.大野坂道」の3ルートを実地調査し整理した。「北御坂道」は、現在のJR御岳駅方面からの道。前号会報で紹介したように旧青梅街道から歩く。史跡や文献も多く存在。「南御坂道」は、日の出町平井宿から平井川沿いに歩く。史跡が多く、御師（おし）（参拝者を案内等する神職）住宅（久保田家）が存在する。「大野坂道」は、現在のあきる野市上養沢からの道。

文献等調査で史跡や御師住宅の存在は把握するが、地元有識者等の情報確認ができずにルート確定が遅れた。あきる野市の協力で鈴木氏を紹介され、2月に訪問した。鈴木氏からは御師住宅（木住野家、現在不在）、史跡、参拝道の状況などの説明を受けた。3ルートには、史跡、文献等の存在は勿論だが、御師住宅（下り御師）が存在し当時の参拝者状況も知ることによって登拝道と確認した。鈴木氏の説明後、大野坂道を御嶽神社まで約2時間30分の踏査活動実施。これで武州御嶽山登拝道の踏査活動は終了した。



あきる野市の地元有識者、鈴木氏から説明を受ける

三ノ塔

— 快晴の空の下
富士山と海の展望を満喫 —

【日 時】2024年1月25日

【天 候】晴れ

【参加者】12名 / 中尾、SL清水（茂）、川島、今野、佐久間、菅野（浅）、菅野（丈）、高田、西村（章）、柘津、東、吉田（博）

【行 程】8:25 秦野駅 = 9:13 ~ 25 ヤビツ峠バス停 → 9:45 護摩屋敷の水場下 → 11:03 ~ 11:10 二ノ塔 → 11:35 ~ 12:00 三ノ塔 → 13:15 牛首 → 15:00 大倉バス停 = 秦野駅



富士山を背に三ノ塔にて

【記 録】秦野駅に集合し、バスでヤビツ峠まで移動。数日前からの寒波の影響か風が冷たいが、雲一つない快晴。日の差さない林道を歩くと、30分ほどで登山道入口着。風が治まり日差しが暖かい。そこから階段状に整備された道が続く。登って行くと、左に光る海の向こうに利島、初島が見え、背後に三浦半島、東京湾、房総半島が一望。さらに進むと右、遠くに筑波山が見えた。そのうち先頭を歩いていたSLから「皆さん、ここまでは下を向いて上ってきてくださ〜い」と声がかかる。SLのところまで顔を上げた参加者から感嘆の声が上がる。到着したのは二ノ塔、目の前に雪を冠した大きな富士山が広がっている。そこから25分ほどで三ノ塔に到着。富士山を背に集合写真を撮り、お昼休憩。下りは長丁場、ゆっくりと歩を進める。針葉樹林の中は徐々に寒くなっていく。伐採工事のために登山道を迂回して計画とは違う道を降り、大倉バス停に到着。一日中快晴の下の山行だった。

（文・写真 / 中尾理絵）

興因寺山

— 深い落葉を踏みしめて —

- 【日 時】 2024年2月15日(木)
- 【天 候】 晴れ
- 【参加者】 8名/ 副島、SL 中原、鬼村、小河、今野、高木、茂呂、山内
- 【行 程】 甲府駅=(バス)=9:08 武田神社→
9:40 第一公園→ 11:05 金子峠→ 11:45 淡雪山
→ 12:50 興因寺山(昼食) → 13:40 北山園地
→ 15:00 武田神社=(バス)= 甲府駅

【記 録】9:00 に甲府駅に集合し、自己紹介、コースの紹介をする。バスに乗って武田神社で下車。第一公園で準備し、金子峠の白い建物を確認して出発する。武田の重要な家臣の邸宅跡街を通り抜け、頂上から続く送電線の鉄塔の元で休憩。長年の落葉が堆積した山道を、見えない枯木に注意して進む。山奥の人々と牛馬、大八車が毎日通った穏やかなつづら折りの坂道を14ヶ所折り返すと金子峠着。甲府の街を眺めながら休憩する。

お城のような宗教団体の建物前を通過し、白い砂岩の稜線を登る。短い急な登り降りを繰り返し、淡雪山を通過して、雪の残る興因寺山頂上へ到着し、昼食。残念ながら富士山は雲の中。下りは送電線の巡視員用の階段を降りる。落葉の厚そうな場所は体を沈めて降りる。雑木林はピンクのテープを目印に進み、北山園地の四阿で休憩。市道までも同じような所を進む。興因寺で無事に下山のお礼参りをし、武田神社を参拝し、バスで甲府駅へ戻った。

(文 / 副島一義、写真 / 中原三佐代)



興因寺山山頂にて

砂礫の淡雪山を登る



大福山

— 山名にあやかりたいと
登った山頂は静かなり —

- 【日 時】 2024年3月14日(木)
- 【天 候】 晴れ
- 【参加者】 9名/ 副島、SL 西山、鬼村、齊藤、中原、植草、中山、真鍋、本村
- 【行 程】 9:17 五井駅 = 10:15 養老溪谷駅前 → 11:15 女ヶ倉 → 13:10 大福山 → 15:00 上総大久保駅
→ 郵便局前 = 里見駅 = 16:35 五井駅



大福山山頂で大福を頬張る



林道の桜もほころぶ

【記 録】五井駅で合流した参加者とディーゼル列車に乗り込んだ。車窓から菜の花や田んぼなどを眺める里見駅から先の運休区間を代行バスに乗り換え、養老溪谷駅前下車。自己紹介、体操の後出発する。梅ヶ瀬溪谷への分岐点の女ヶ倉で一休み。溪谷は去年の大雨で渡渉の飛び石が流失し通行できない。途中、房総半島の山並みが望める開けた地点で休憩。標高200m位なので山座同定は中々難しい。

市道を進むと上古屋敷の集落、T字路の左へは大福山への道、展望台は腐食で上れず通過。明治時代に私塾を開校した日高誠実の碑を見て、85段の階段を上ると白鳥神社の境内。神社横の小高い丘の大木の下に山名看板を二枚みつけるが山頂に展望はない。大福片手に集合写真を撮り、神社の石段の陽だまりで昼食。帰路は緩い林道歩きで上総大久保駅まで少し急ぐ。運休している駅舎の周りで菜の花だけが揺れていた。代行バスから列車に乗り換えてゴトゴトとゆるる車内で解散の挨拶をした。(文 / 副島一義、写真 / 植草由利、中原三佐代)

〈1月定例山行〉

愛鷹山 —新年に雄大な冬富士を眺めながら—

【日 程】2024年1月13日(土)

【天 候】晴れ

【行 程】8:30 御殿場駅＝(タクシー)＝9:00 十里木高原→9:10 登山口→9:20 十里木展望台→9:50 馬の背→
11:15～50 越前岳→12:15 富士見台→13:10 鋸岳展望台→13:50 富士見峠→
14:50～15:00 山神社駐車場＝(タクシー)＝15:25 御殿場駅

【参加者】10名 八山本(曜)、SL 鎌塚、上原、鬼村、加瀬、川島、祢津、松本(博)、茂呂、吉川

【記 録】

愛鷹山(あしたかやま)は富士山の南に山裾を広げる山塊で、日本200名山の一つ。最高峰は標高1504mの越前岳だが、南方に1188mの愛鷹山峰がある。今回、越前岳を目指した。当日は雲ひとつ無い快晴の中、さぞかし美しいであろう富士山のお姿を期待しつつ出発。所々霜が付いた長い階段を登り進んで行くと程なくして展望台に到着。振り返ると頭だけ雲のベールを纏った富士山が見えた。裾野までしっかりと見える富士山と広々とした草原の景観が清々しい。馬の背を越えてから岩場の急登や木の根が多くなる。以前、主に使われていたと思われる登山道は大きく抉られ、新たに踏み固められた道がいくつも現れる。

遠くに海が見え始め、越前岳に到着。富士山はさらに雲を羽織ってしまったが、南アルプスの山々ときらきりと光る駿河湾が美しかった。気温は2℃。少し風が強くなってきたところで山頂を後にした。

下り始めは緩やかだが徐々に大きい段差が現われる。ゆっくり着実に降る。それでも鋸岳展望台の時点で予定より1時間ほど早い。タクシー会社に連絡し30分早く来てもらうことにした。愛鷹山荘前でミツマタの蕾を発見。もう春の訪れも感じられ



富士山の絶景が見られる十里木高原展望台にて

たという驚きも束の間、帰路では初雪に遭遇したのだった。(文/鎌塚、写真/山本(曜))

【感想】松本博子さん●昨年6月多摩支部に入会後、ようやく参加できた愛鷹山への初登山。申込後すぐにリーダーから丁寧な案内があり、当日も準備体操・トランシーバーのチェック・休憩時間の速やかな伝達など、さすが東京多摩支部。越前岳山頂から駿河湾のカーブとキラキラ光る伊豆半島を昼食前にささっとスケッチ。急な下りや木の根の浮いた山道は久しぶりと気づき、昨秋の古道調査での比較的整えられた路面の街道が思い返された。年初めに雄大な富士山麓を眺められ今後は膨らむ初参加だった。

mini レポート

キリマンジャロ登頂 —マチャメ・ルート—

【日時】2024年2月24日(土)～3月1日(日)
【参加者】山下和保他12名【行程】マチャメゲート→マチャメキャンプ→シラキャンプ→バラコキャンプ→カランガキャンプ→バラフキャンプ→ステラポイント・ウフルピーク(登頂)→ミレニウムキャンプ→ムエカゲート



標高4,000mのトラバースで4泊し高度順応。5日目午後11時にバラフキャンプ(4,673m)から登頂開始。雪道の九十九折が続く。満天の星空に南十字星。眠気も極限に近づいたころ、東のマウエンジ峰の向こうから朝日が山肌を染める。ステラポイント(5,756m)まで上がり、火口稜線を1時間半、最高地点のウフルピーク(5,895m)に到達!

北横岳 —南峰からの絶景に息をのむ—

【日 程】2024年2月10日(土)

【天 候】快晴

【行 程】ロープウェイ山麓駅＝山頂駅→坪庭→北横岳ヒュッテ→北横岳南峰→12:55～13:10北横岳北峰→13:20～30北横岳ヒュッテ→坪庭→14:20～30山頂駅＝14:45ロープウェイ山麓駅(解散)

【参加者】13名/齊藤、SL鬼村、清水(茂)、西山、古谷、今中、大井、中島、中村(敦)、中山、宮田、宮本、吉田(博)

【記 録】

最初は天候不良、二度目はコロナ渦とキャンセルが続いた後、迎えた三度目の正直の山行。降雪後の三連休初日、天候は良好だった。茅野駅のアルピコバスも増便を準備。参加者は3台のバスに分かれてロープウェイ山麓駅へ向かった。山麓駅では車で来ていたスキー客を加えてチケット売り場や乗り場は大混雑。山麓駅で到着時間に20分以上の差が出来てしまった。

山頂駅(2233m)でミーティング後、出発。まずは坪庭を散策するように標高を上げて行った。サラサラした新雪でアイゼンの効きが良い。参加者も久々の雪山歩行を味わうように進んだ。樹林帯に入ると、時々開ける景色、南側に縞枯山、その奥に南八ヶ岳が見え、見上げると八ヶ岳ブルーの青空。望んでいた景色に、皆興奮していた。下ってくる登山者と追い越しに気を使いながら、あっという間に北横岳ヒュッテに到着。強風対策をして山頂を目指す。



青空の広がる北峰山頂にて



南峰から南八ヶ岳の右に南アルプス、左に奥秩父

樹林帯を登って
南峰へロープウェイ山頂
駅を出発し、坪庭
から樹林帯へ

北峰まではもう一登り。風でダイヤモンドダストのような雪が飛んできた。と思うと北峰へ到着。南八ヶ岳・南アルプスから北アルプス・蓼科山等々の絶景に息をのんだ。写真を撮り、足早に南峰へ戻る。南峰の方が風が避けられるのか、寒さも少し楽である。思い思いに写真を撮ることが出来た。

ゆっくりしたいところだが、すぐに下山開始。傾斜のキツイ下りでは、一步一步アイゼンの爪を効かせ、坪庭へ下った。出発の遅れを取り戻せるスピードに苦もなく皆がついてこられた。

ロープウェイ山頂駅に着くとアルプス達は雲の中。タイミング良く絶景を山頂で見られた事に感謝。最終バスで茅野へ。満足して帰京する参加者の笑顔に疲れも忘れ、大満足の日になった。(文・写真/齊藤理恵子、写真/西山さより、古谷和幸)

〈2月定例山行〉

幕山 — 梅と海に春を感じて—

【日時】2024年2月18日(日)

【天候】くもり

【行程】10:20 湯河原駅⇒幕山第3駐車場→11:12 幕山登山口→12:35～13:00 幕山→13:20 自艦水
1 13:47 南郷山→14:14 南郷山入口→15:09～4 鍛冶屋バス停⇒15:35 湯河原駅

【参加者】10名/西中、SL高砂、鬼村、浅香、大井、川島、菅野(丈)、中山、西村(章)、宮田

【記録】

前日の情報によると幕山の梅林は七分咲とのこと。数週間前に臨時バスが出ていることを確認したので、集合時間を10分早めて9:50のバスに乗るよう計画変更。乗れなくても10:00のに乗れば大丈夫と思っていたが、このバスは出ず。観梅客が多く、結局3チームに分かれて乗車。全員が登山口にそろろうのも1時間遅れ、出発も遅れてしまった。

梅園の梅は情報通りの七分咲き。曇り空のせいか花の色が映えない。登っている途中に時々見える真鶴半島に気分があがった。幕山で昼食を摂る。近くにある頼朝ゆかりの自艦水という小さな池へ行く。木立に囲まれた静かな池。ここに辿り着いた敗戦の将頼朝が水面に映った自分顔を見て自害を思いとどまったとも伝えられる。自分も年を重ね、歴史に想いをはせるようになった。

参加者の健脚に助けられて南郷山に着くころには予定より早くなっていた。計画通り鍛冶屋バス停まで進む。南郷山(610m)はビューポイントとされ、展望がとてもよく、真鶴半島や初島がみえたが、富士山は雲の中に隠れていた。南郷山からの竹藪の道も風情があった。予定のバス時刻に間に合った。湯河原駅前で柑橘果物を買って帰途についた。

(文・写真/西中智恵子)



幕岩山頂にて

新人です、よろしく!

西村章さん♥奥多摩BCにたまたま立ち寄ったのが運命だったのか、あっという間に多摩支部に入会し、奥多摩BCの委員に。山行や講習会などに参加し、知識技術を深め、山を楽しみたい。

中山摂さん♥9期卒。尾根歩きと水の音に癒されながらの登山が一番好きです。エネルギッシュな多摩支部の皆様と色々な山に出会いたい。



ほころんだ梅の花



山裾を彩る梅林

mini レポート

八甲田の山スキー

1月に太田、柏木、山根らが、3月に野口らが、八甲田山で山スキーを楽しんだ。雪は例年に比べ少なめであったとはいえ、さすがにスケールが大きく、硫黄岳や田茂菴岳(たもやちだけ)、風雪の横岳などをシール歩行で登って滑降した。



仙人岱ヒュッテにて

田茂菴岳を目指して



硫黄岳山頂から滑降

硫黄岳から酸ヶ湯への下りで一休み

〈3月定例山行〉

硫黄岳 — 爆風の山頂から見た八ヶ岳は美しかった —

- 【日時】 2024年3月2日(土)～3日(日)
 【天候】 両日とも晴れ、2日目の夏沢峠～硫黄岳は西寄りの強風
 【行程】 1日目 /9:20 小淵沢駅=(タクシー)=10:15～10:40 みどり池入口→12:50 みどり池→
 13:20 中山峠分岐→15:10 本沢温泉(泊)
 2日目 /7:10 本沢温泉→8:40 夏沢峠→10:15～20 硫黄岳→11:15 赤岩の頭→12:25～45
 赤岳鉱泉→14:30 美濃戸→15:20～35 美濃戸口=(タクシー)=15:55 小淵沢駅
 【参加者】 8名 / 佐藤、SL 山本(曜)、上原、鎌塚、齊藤、酒井(真)、古谷(和)、松本(賀)

【記録】

◇3/2◇山行2週間前に準備会を実施し、計画や装備について説明を受けた。当日、小淵沢駅で共同装備の分担をした。みどり池入口からアイゼンをつけて樹林帯を歩く。雲一つない八ヶ岳ブルーの快晴、足元の雪がまぶしい。2時間ほど歩いて、しらびそ小屋で休憩。休んでいるとあっという間に手足が冷たくなるが、風はない。凍ったみどり池越しに見える硫黄岳から雪煙が舞っている。雲は勢いよく流れ、明日の強風を想像する。夕食前に女性陣3名は「日本最高所野天風呂」にチャレンジ、体の芯から温まった。内風呂も熱めの温泉だったそう。

◇3/3◇5時起床。室温は0度、外気温は-11度。夏沢峠で硫黄岳山頂に進めるか判断することにし、7時過ぎに出発。ほとんどのメンバーは歩き始めからピッケルを手にする。高度を300mあげて夏沢峠に到着。より強い風に緊張感が高まる。バラクラバやフードをかぶり、アウターのファスナーを閉める。風はどんどん強くなり、森林限界を超える頃には、時折爆風が吹き付けてくる。強風で声がかき消され、体が振られる。頭を低くして！と大きな声が飛び、耐風姿勢を取りながら黙々と進んでいく。最大瞬間風速は25m/s位とのこと。強風に晒され歩くこと2時間弱、10時過ぎに硫黄岳登頂。強風と寒さでじっとしてられないが、美しく迫力ある八ヶ岳の姿を目に焼き付ける。支部旗が強風であられるが、なんとか写真を撮って、早々に下山。広い尾根に着き、ようやく一息つけた。この先の赤岩の頭直下は雪崩の要注意ポイント。急な斜面を慎重に下り、樹林帯に入る。赤岳鉱泉で一息入れて、15時過ぎに美濃戸口へ下山した。

(文・写真/山本(曜)、写真/佐藤(守)、古谷(和))



爆風にさらされながら
朝陽を浴びて登る

硫黄岳山頂から降りて、南八ヶ岳を背に赤岩の頭にて



八ヶ岳の本沢温泉、露天風呂が日本最高所にある

新人です、よろしく!

古谷和幸さん♥今まで、ソロ山行が多く、人と山に登る事はなかったが、せっかく山岳会に入ったので、いろいろな企画に参加したい。

松本賀都子さん♥10数年前、武蔵野市山岳連盟主催の登山スクールで山の楽しさを学んだ。これからも支部のみなさんと、たくさんの山々を歩きたいです。

〈10期登山教室〉

石割山 — 降りしきる雪のなか、初めての雪山歩行 —

【日 程】2024年1月20日(土)

【天 候】雪

【参加者】31名/受講生15名、スタッフ16名/[A班]班L石川、班SL高岡、市村、勝又、柘津、野村、渡邊、講師野口、SP上原、SP辻、SP城森、[B班]班L内藤、班SL吉田、井上、乙川、杉山、河村、丸谷、SP浅野、SP岩本、SP中島/[C班]班L広瀬、班SL皆川、亀山、佐藤(は)、榊原(さ)、菅野、土橋/総括L宮崎、SP中山、山行L中村(敦)

【行 程】立川7:00バス=9:00~20石割山登山口→9:50東屋→10:12~25石割神社→10:38~11:25石割山山頂→11:55~12:23平尾山→12:59~13:20大平山→長池山→13:57分岐→14:20大平山登山口→14:45長池親水公園=15:10バス=17:10立川

【記 録】

アイゼン・チェーンスパイクを使えそうな山として、今年度初めて、石割山を選んだ。当日は、いつから雨や雪になるかと心配していたが、河口湖辺りから雪が降ってきた。石割山登山口に到着した時には3cm程度積もっていた。降雪を避け、木立の下で準備をして出発。しんしんと雪が降る中、403段の長い石段を登る。先頭が少し早過ぎ、東屋で長めに休憩。そこから20分ほど歩くと、石割神社だった。頭上に覆いかぶさってくるような大岩の割れ目を3周まわると願いが叶うとのことだが、今回はお預けになった。さらに20分ほど進むと石割山山頂に着いた。

雪は静かに降り続いていましたが、風はなく、さほど寒くはない。昼食は数回に分けて食事をするよう指示し、長い昼食休憩は取らなかった。本来なら目の前に富士山がドンと見えるはずが残念だ。

講師が雪上の歩き方を説明した。アイゼンやチェーンスパイクを着け、平尾山まで順調に歩く。



雪の降り続く石割山山頂で



雪の中、元気に進む



平尾山から階段も多くアップダウンが続くのでアイゼン、チェーンスパイクを脱ぐ。登山道も笹の上も一面雪景色の中、淡々と進む。雪は強くなったり弱くなったりと降り続く。大平山でバスと連絡を取り予定通り歩くことにする。大平山登山口から林の中の山道を抜ける。出発時間は予定より遅かったが、パーティー登山が身につけてきたようで、休憩時間の行動も上手くでき、長池親水公園に予定通りの時間に到着。ぬくぬくしたバスに乗車し、冷えた体が温まる。雪の降る中歩いたことはとても良い経験で、記憶に残る山行になっただろう。

(文/中村敦子、写真/辻正人)



← 403段の石段
↓ 石割神社



↓大岩の割れ目、
3周すればご利益が

入笠山 — スノーシューによる雪上歩行を体験 —

【日 程】2024年2月17日(土)

【天 候】晴れ

【参加者】26名(受講生15名、スタッフ11名)／山行L内藤

[A班] L中村(敦)、SL小澤(拓)、SP上原、市村、勝又、榊原(啓)、祢津、野村、渡邊

[B班] L皆川、SL吉田(博)、SP清水(節)、井上、杉山、河村、丸谷、大和

[C班] L中村(正)、SL菊地、講師野口(い)、SP高岡、亀山、榊原(さ)、土橋、守屋

【行 程】7:05立川=(バス)=9:40～10:30富士見パノラマリゾート=(ゴンドラ)=10:40～11:00山頂駅
→11:35～50山彦荘→12:05御所平峠→12:45～13:30入笠山(昼食)→14:40入笠湿原→15:10～30
山頂駅(ゴンドラ)=15:40～16:00富士見パノラマリゾート=18:30立川(解散)

【記 録】

どんよりと曇っていた空は笹子トンネルを抜けたあたりから晴れ間が広がり始める。富士見パノラマスキー場についてスノーシューをレンタルしてからゴンドラで山頂駅へ。広場で準備を整え、スノーシューを装着。中村正之氏からスノーシューの歩き方についてレクチャーを受け、歩き始める。

気温が高く、すぐに汗ばんでくる。林道を越えたところで道を外れて雪原に入る予定だったが、雪が少なく笹藪になっており断念。だいぶ下ってもうすぐ入笠湿原というところでようやく雪原を自由に歩けた。山彦荘前でアイゼンかチェーンスパイクに履き替えて入笠山山頂を目指す。最後は岩場コースの急な登りになり、アイゼンやチェーンスパイクの威力を感じながら山頂に立つことができた。富士山、南アルプス方面は雲に隠されているが、北アルプスや中央アルプスはよく見える。八ヶ岳は山頂が雲に隠れている。風は弱くて拍子抜けするほど暖かく、ゆっくり落ち着いて昼食。



入笠山
山頂にて



アカノラ山の
斜面で最後の
登り



アイゼンを利かせて
入笠山山頂へ

スノーシューで
林間を下る



山頂でスノーシューに履き替えて下山にかかる。山頂からの急坂を過ぎたところで、予定通り林間の雪面に踏み入れた。雪はそれなりに積もっていた。スノーシューが思ったより雪に沈み込み、びっくりしている受講生もいた。あちこちで歓声が上がり、小一時間ほど自由歩行を楽しんだ。入笠湿原まで戻って休憩後、再び自由歩行でアカノラ山の急斜面を登る。慣れないスノーシューで疲れた脚にはきついところだが、元気に登り切って、山頂駅に戻った。厳冬期の冬山体験には少々暖かすぎたが、本格的な雪山とスノーシューを体験して、受講生には忘れられない一日になったと思う。(文・写真/内藤誠之郎)

〈10期登山教室〉

修了山行 三つ峠山 — 一年の成長を振り返って —

【日 時】 2024年3月16日(土)～17日(日)

【天 候】 1日目/晴れのち薄曇り、2日目/晴れのち曇り

【参加者】 27名/受講生 16名、スタッフ 11名

[A班]班L中村(敦)、班SL(16日)皆川、(17日)辻、市村、勝又、榊原(啓)、祢津、野村、渡邊、講師近藤、

[B班]班L山内、班SL浅野、井上、乙川、河村、丸谷、大和、横山、総括L宮崎、山行L村岡、

[C班]班L中村(正)、班SL吉田、佐藤(は)、榊原(さ)、菅野(初)、土橋、SP佐野

【行 程】 1日目/9:15 三つ峠駅→9:55～10:10 さくら公園→11:05 ゲート→12:35～13:05 馬返し→15:05～15 屏風岩→15:25～45 三つ峠山荘→16:00～30 開運山→16:40 三つ峠山荘(泊)
2日目/8:50 三つ峠山荘→10:30～45 送電鉄塔→11:15～25 霜山→12:50～13:30 天上山→14:20 河口湖駅

【記 録】

初日の標高差が1100m以上あり、一泊の荷物を背負って歩くハードな行程である。

集合場所の三つ峠駅には、重そうなザックを背負った受講生が清々しい表情で現れた。荷物の重さには個人差が相当あるように感じられた。ゴールの山頂を仰ぎ見て「あんなに上るのか～」という言葉が漏れる。

長い林道歩きののち登山口に到着。積雪はほぼ無い。股のぞきで富士山とご対面、馬返して昼食。この先から急登が始まる。屏風岩が徐々に近づいてくるのを感じる。八十八大師から先の谷のトラバースには残雪と凍結があり、通過に緊張を強いられた。屏風岩に宮崎講師は若い頃はよくクライミングの練習に通ったとのこと。三つ峠山荘に荷物を置いて山頂を往復。春霞で富士山はうっすら見える程度だったが、開放的な景色を堪能できた。



修了式の翌朝、日の出前に山頂で記念写真

夕食後の修了式では一人一人に宮崎講師から修了証が手渡された。10期は26名でスタートし、下期に19名になった。講座7回、実習登山12回、皆勤賞は3名と素晴らしいことだ。懇親会では、印象に残った山行や感想を話してもらった。意外にも、悪天候やハードだった山行で自信がついたと述べる人が多かった。引き続き山を楽しみたいと入会を検討している方が半数以上いたことは嬉しいことだった。翌朝は日の出前に山頂へ。風が強く、富士山の近くに大きなレンズ雲が出ていた。

下山は府戸尾根を下る。残雪があるためチェーンやスパイクやアイゼンを装着アイゼンの爪をしっかりと食い込ませる歩き方などを再確認できたようだ。重い荷物を背負って残雪期の長い下りをしっかりと歩き通せる力がついたのは一年の実習の成果であろう。受講生の成長を感じた修了山行だった。

(文/村岡庸こ、写真/辻 正人、佐野豪昭)



修了証を手に嬉しそうな河村さん

山荘の大広間で修了式



〈中級登山教室プレスクール〉

赤城山縦走 —黒檜山から駒ヶ岳へ—



赤城山山頂にて

【記 録】2月12日(月・振休)に赤城山を縦走した。講師は中村(正)、野口(い)、近藤、川瀬の4名と、講習生14名(小澤、中島、山根、佐々木、高岡、皆川、西村、大井、宮田、橋本、岩本、祢津、中山、内田)が参加。

黒檜山登山口から山頂まで標高差で500m未満だが、距離が短く、急な登りが多い。10時前にあかぎ広場に集合。快晴の青空の下、北に黒檜山に至る稜線が山頂まで伸びているのが望めた。10:20、出発し、大沼沿いの車道を30分ほど歩くと黒檜山登山口(1368m)着。アイゼンを装着し、

登り始めるとすぐに急登となった。11:35、一休みすると、白く凍った大沼の向こうに地藏岳が大きかった。稜線に出て左に行くと黒檜山(1828m)の山頂だった。展望地で昼食。上州武尊山が真正面に立派にそびえ、その左に浅間山、谷川岳、右に日光、皇海山…と360度の素晴らしい雪山展望。南に向かうと正面に駒ヶ岳がどっしりと鎮座していた。大ダルミの前後で勾配がゆるみ、広々とした気持ちの良い尾根を歩く。雪の斜面を小さな雪玉が転がり、真っ白な斜面に木々が幻想的な黒い影を落とし、枝にエビの尻尾のように氷が張り付いている。一登りすると、14:00、駒ヶ岳(1685m)山頂だった。手すりのある急な階段を下り、あかぎ広場に帰着。素晴らしい展望と多くの学び。充実した一日だった。(文/祢津尚美、写真/中村正之)

上州武尊山 —雪稜のアップダウンを超えて—

【記 録】3月31日(日)、川場スキー場リフト終点から武尊山(沖武尊)を往復した。講師は中村(正)と野口(い)の2名と講習生10名(西村、中島、高岡、大井、中山、佐々木、浅野、山本、山下、山根)が参加。登山口から山頂まで標高差300m強程度で、雪山初心者の入門コースとも言われる。しかし、途中急峻な剣ヶ峰の登り降りや、痩せ尾根の通過、数回のアップダウン等もあり、累積標高差は600m弱、十分に登り応



上州武尊山山頂にて

えのあるコースだった。当日は晴天で、10:10にリフト終点の登山口を出発。多少風が出るものの絶好のコンディションだった。登り始めて間もなく剣ヶ峰の急登があり、11:00に剣ヶ峰山頂に着いた。その先の痩せ尾根からの急な下りで苦勞する講習生が多く、時間がかかった。前方には、雪稜が右に曲がり、左に孤を描いて、山頂に突き上げ、山頂から白い頂稜が東西に延びていた。いくつかの小ピークを越えて、山頂に12:50にたどり着いた。赤城山をはじめ、皇海山、日光白根山、尾瀬の燧ヶ岳、至仏山、平ヶ岳、谷川岳等の山々を望むすばらしい展望で、皆で達成感を分かち合った。20分ほど休憩をとって下山開始。2時間かかからずに、15:00にリフト終点に帰着。装備としては、残雪期ではあるが、しっかりしたアイゼンとピッケルは必携と考えさせられた。(文/佐々木朗子、写真/山根伸洋、高岡洋子)



尾根をたどって山頂を目指す

〈低山を楽しむ会〉

— 新年山行で高尾山八十八大師を巡る —

【日 時】2024年1月26日（金）

【天 候】晴れ

【参加者】12名 /CL 富澤、SL 石塚、SL 小口、SL 辻橋、本多、原、河野、佐藤（登）、松川（征）、川口、佐伯、ゲスト1名

【行 程】9:30 高尾山口清滝駅前→10:00 琵琶滝→二本松→（行者道）→11:10 十一丁目茶屋→12:00 仏舍利塔→薬王院→13:45 山頂→（富士道）→薬王院下→高尾山ケーブル駅→15:30 高尾山口駅



高尾山山頂で

【記 録】高尾山に年に何回も登る会員のために、新年らしく趣向を変えて高尾山八十八大師巡りをしながら登ることにした。週に何回も登っている富澤会員の案内で、ケーブル駅前広場の上にある一～八番の大師像を確かめてから琵琶滝へ。脇の急な登山道を登り二本松に出たところに九～十六番の大師像がある。岩がごろごろした行者道を休み休みゆるゆる登って十一丁目茶屋に出て、ケーブルで上がってきた本多代表、原軍曹、小口会員と合流。高尾饅頭を食べ、参道脇にある大師像をたどりながら、男坂の108段の階段を登り仏舍利塔に出る。広場にある四十二～六十三番の大師像を拜んで、日向で弁当をすませ、薬王院へ。山頂から、富士山や丹沢の山々を眺めてケーブルで下山した。（文・写真 / 石塚嘉一）



八十八大師の前で富澤会員が説明



カナダから来たゲストと

曹、小口会員と合流。高尾饅頭を食べ、参道脇にある大師像をたどりながら、男坂の108段の階段を登り仏舍利塔に出る。広場にある四十二～六十三番の大師像を拜んで、日向で弁当をすませ、薬王院へ。山頂から、富士山や丹沢の山々を眺めてケーブルで下山した。（文・写真 / 石塚嘉一）

— 丹沢の山々を見ながら春間近の渋沢丘陵を歩く —

【日 時】2024年2月27日（火）

【天 候】晴れ

【参加者】17名 /CL 辻橋、SL 石塚、SL 小口、大島、川村、佐伯、佐久間、佐藤（登）、城田、竹中、富澤、松川（征）、松川（信）、松田、横関、吉田（文）、ゲスト1名

【行 程】10:00 秦野駅→今泉名水桜公園→11:00 白笹稻荷神社→12:00 震生湖（昼食）12:50 →渋沢丘陵入口→（渋沢丘陵・展望）→14:10 析窪会館・頭高山分岐→市街地の道路→（住宅地）→15:00 渋沢駅

【記 録】小田急線秦野駅から渋沢駅の南側の丘陵地帯を歩く。駅から住宅地の中をしばらく歩いて、関東三大稲荷の一つ白笹稻荷神社に立ち寄り、その先から丘陵地の菜の花や梅の花が咲く畑の中を登ると、やがて震生湖に着く。関東大震災のときにできたのでそう呼ばれる。陽が当たる3つのベンチに分かれて、ゆったりと昼食をした。渋沢丘陵からは、白梅や木々の間から形のよい大山や丹沢の山々が大きく見えた。春間近の陽気だが、塔ノ岳から鍋割山の方にはうっすらと雪が見えて、楽しい歩きとなった。（文 / 辻橋明子、

文・写真 / 石塚嘉一）



梅の蜜を吸うメジロ



「震生湖」の前でのどかなひと時を過ごす

マッキンリーに消えた植村直己

没後 40 年、メモリアル展を訪れて

岡田陽子

植村直己さんが北米最高峰、デナリ（マッキンリー）の厳冬期単独初登頂後に消息不明になって40年になる。節目の2月、植村冒険館で企画されたメモリアル展、『山頂に残された旗、没後40年、マッキンリーに消えた植村直己の足跡』を訪れた。ミニシアターで『冒険家 植村直己の世界』の最終章が流され、出発時にインタビューを受ける姿、クレバス墜落防止用の竹ざおを腰にBCを出発する姿が映し出され、アタック・キャンプの雪洞に残された装備類、山頂にあった日の丸と破れた星条旗が展示されていた。

私の一回目の遠征は2005年の5月（29日間）。デナリの登頂率は5割弱と聞くが、悪天候に阻まれてハイ・キャンプでタイムアップ。やむなく下山となったが、翌年の6月（27日間）、大蔵喜福さんのIARC-JAC第17次マッキンリー気象観測登山隊に参加させてもらい登頂することができた。大蔵さんは、植村さんの遭難やその後山田昇さんをも亡くしたことで、5715m地点に通称「ウェザー・ステーション」を設置してデナリの風を調べ、観測データの蓄積で山岳気象遭難の防止に、そして地球規模で起きている気象問題の解明につながらないかと毎年デナリに通い、5年前の夏、30年の区切りをつけた。

6月8日、タルキートナ飛行場からセスナ機でカヒルトナ氷河上のランディング・ポイントに。そりを引いてスキーにシールを付けてC1、C2、C3と進みメディカル・キャンプに。高度順応をしながらウエスト・バットレス、ハイ・キャンプと進んだ。待機すること3日。ようやく絶好のアタック日和を迎え、フットボールフィールドを過ぎ、急峻な稜線を登って標高6190.4mの山頂に全員立つことが出来た。絶景を堪能した後、アンザイレンして下り、

途中で喉が渴きテルモスを出すと、中のお湯が凍っていた。疲れ切って三歩進んでは息を整え、五歩進んでまた息を整えて、ようやく白夜のハイ・キャンプのテントにたどり着いた。

メディカル・キャンプで撤収作業後、アンザイレンしてC2に下る途中で突然、前を行くMさんがクレバスに落ちた。自力で這い上がってくるまでの恐怖と不安感。スキー下降は、テント一式を載せたそりのコントロールに翻弄されて転倒すること数知れず、登頂時にはテカテカにクラストした急斜面で突然アイゼンが外れて肝を冷やし、山ほどのピンチを仲間にも助けてもらい、ようやく氷河上のランディング・ポイントに着き、帰りのセスナ機を待った。

植村さんは、1970年5月、日本山岳会エベレスト登山隊で日本人として初めてエベレストの頂上を踏み、8月にはマッキンリー単独登頂を果たし、世界初の五大陸最高峰登頂者となった。しかし、厳冬期のデナリは、生命を維持するだけで精一杯の厳しいものだったのだろう。今も氷雪の中で眠っている。下山後にタルキートナ墓地を訪れると、墓標のプレートの中に、「NAOMI UEMURA」の名が刻まれていた。



IARC-JAC マッキンリー登山隊全員登頂
(筆者は中央)

多摩支部の人々（第7回）

私の個人史「多摩支部創立に関わって」 竹中 彰

私は3歳の時（1945年5月）に東京・幡ヶ谷界隈で空襲に遭い、生後間もない妹を背負った母親に手を引かれて周囲が火の中を逃げたのが記憶に残っている。その後、父の転勤で前橋、沼田、尼ヶ崎、大阪（十三）と転居し、名古屋で小学校を卒業した。名古屋から大阪（阿倍野）に転居し、住吉高校に進み、山岳部に入部した。入部後、縦走、岩登り、雪山も経験し、北ア立山、劔岳などで合宿を重ね、平時は六甲山界隈の岩のゲレンデでトレーニングにいそしんだ。冬合宿の柵池から白馬岳を狙って天狗原にテントを上げ、厳寒の明け方近く月光の下、広大な白馬乗鞍の斜面を滑ったことは今でも眼前に浮かんでくる。

一橋大学に進むとやはり山岳部に入部し、最初は穂高・涸沢合宿。新人は北穂東陵、滝谷見学ツアー、ジャンダルム飛騨尾根、前穂北尾根等の入門コースを連れられて歩き回った。縦走は中尾峠を越えて新穂高、笠ヶ岳から雲の平を経て船窪、針ノ木峠へ。合宿後に腰痛に襲われたが、正月明けのスキー合宿から復帰し、春は五竜岳東面のバリエーションに向かった。2年の夏合宿は劔沢・三の窓前進テントででチンネ、ジャンダルムで岩登り三昧。冬は爺の東尾根から針ノ木岳を目指したが、風雪に6日間降り込められた。3年の春は柵池から天狗岳、不帰の嶮を通過して唐松岳にたどり着いた。夏は涸沢初日に滝谷四尾根で事故を起したために計画は中止となり、反省の議論が続いた。冬は中央ア木曾駒ヶ岳から南駒ヶ岳迄の縦走を行った。翌年の春は穂高の横尾尾根から北穂にACを上げ、奥穂アタックを計画したが、自分は膝を打撲し下山した。社会に出てからは冬はゲレンデスキー。60歳に近づいてから本格的に登山を再開した。

復活後、JAC入会し、先輩に財務委員会に引っ張られ、その後、監事に就いた。監事退任後、2010年2月に東京多摩支部が創設され、初代の支部長を務めることとなった。当初はベテランも多く、強力なサポートを得た。分境嶺踏査、全国支部懇開催等で会員同士の交流が進んだ。登山教室ではこれらの会員が中核となり、「初心者・初級登山教室」に繋がった。現在、教室修了生が教室運営の主体となりつつあり、喜ばしい。

支部長9年目に野口現支部長に引き継いでホッとした。現在は「山の唄を歌う会」で歌い続けており、支部の集会等でも歌をリードしながら楽しんでいる。今後もより多くの仲間に参加して貰えればと思う。



1960年、一橋大学山岳部の涸沢合宿で
筆者は後列向かって左から6人目の白帽子



2014年12月、晩餐会後の懇親会で
向かって右から竹中前支部長、西村さん、
谷口けいさん、野口現支部長
(谷口さんはこの約一年後に遭難された)

★の数は「体力/技術」をします

〈山行委 / 定例山行〉

◆磐梯山 1816m 6/8(土)～9(日) 体力★★ / 技術★
小原庄助さん流登山(朝寝、朝酒、朝湯)をためてみますか? 集合 / 猪苗代駅 10:00、[1日目] 磐梯周辺観光、[2日目] 宿(タクシー) = 八方台登山口 → 弘法清水 → 磐梯山山頂 → 弘法清水 → 黄金清水 → 沼ノ平 → 赤埴山 → 猪苗代登山口、歩行 / [2日目] 6.6hr、申込 / 鬼村、締切 5/25

◆伊豆ヶ岳 851m(奥武蔵) 6/15(土) 体力★★★ / 技術★★
いくつものピークを越える奥武蔵コース。集合 / 西武秩父線正丸駅 08:00 → 正丸分岐 → 伊豆ヶ岳 → 高畑山 → 天目指峠 → 子ノ権現 → 西吾野駅、歩行 / 6.5hr、申込 / 鎌塚、締切 5/25

◆霧ヶ峰 1925m 7/6(土) 体力★ / 技術★
高原を彩る花々を見る。集合 / JR 茅野駅 09:15 = (バス) = 八島湿原 → 物見石 → 蝶々深山 → 車山乗越 → 車山 → 車山肩、歩行 / 3hr、申込 / 富永、締切 6/20

◆苗場山 2145m(越後) 7/20(土)～21(日) 体力★★★ / 技術★★
天空の楽園、高層湿原を満喫する。集合 / 越後湯沢駅 08:25、[1日目] 越後湯沢駅 = 登山口 → 和田小屋 → 神楽ヶ峰 → 山頂ヒュッテ(泊)、[2日目] 山頂ヒュッテ → 深穴岩 → フクベノ平 → 山口館 → 登山口 = 越後湯沢駅、歩行 / [1日目] 4hr15m、[2日目] 5hr35m、申込 / 中原、締切 6/25

◆西沢渓谷 8/31(土) 体力★★ / 技術★★
涼を求めて濃き緑の渓谷へ。集合 / JR 塩山駅 08:00 = 西沢渓谷入口 → 西沢山荘 → 大久保沢出合 → 西沢渓谷入口、歩行 / 4hr35m、申込 / 西山、締切 8/17

◆越後駒ヶ岳 2003m 9/7(土)～8(日) 体力★★★ / 技術★★
魚沼のシンボルに挑戦する。集合 / 浦佐駅 13:30、[1日目] 浦佐駅 = 白光岩バス停 → 伝之助小屋(泊) [2日目] 伝之助小屋 = 枝折峠 → 小倉山 → 越後駒ヶ岳 → 枝折峠 = 银山平バス停 = 浦佐駅、歩行 / [2日目] 11hr10m、申込 / 中原、締切 8/9

〈山行委 / 平日山行〉

◆生藤山 990m 6/13(木) 体力★★ / 技術★
笹尾根縦走路の静かな山。集合 / 武蔵五日市駅 07:10、駅 = 上川乗 B S → 浅間峠 → 軍刀利山西峰 → 三国山 → 生藤山 → 和田 BS = 藤野駅、歩行 / 4.5hr、申込 / 石橋、締切 6/3

◆太平山 341m(栃木市) 7/4(木) 体力★★ / 技術★
古刹に咲く紫陽花と陸の松島。集合 / JR 大平下駅 08:40、大平下駅 → 謙信平 → 太平山 → 晃石山 → 清水寺 → 大中寺 → 大平下駅、歩行 / 6hr40m、申込 / 鎌塚、締切 6/19

◆横根山 389m(鹿沼市) 9/4(水) 体力★★ / 技術★
山、湿原、牧場、滝。盛りだくさんの前日光へ! 集合 // JR 八王子駅 06:10、= (タクシー) = 古峰ヶ原峠 → 方塞山 → 前日光ハイランドロッジ → 横根山 → 井戸湿原 → 五段の滝 → 前日光ハイランドロッジ = 八王子駅、※貸切タクシー 約 8 千円 (7 名)、歩行 / 5.5hr、申込 / 清水、締切 8/20

訃報



元青梅警察署山岳救助副隊長の金^{こん}邦夫さん (No. 14160) が 3 月 23 日ご逝去された。金さんは警視庁の山岳救助活動一筋、特に奥多摩交番には 19 年間在職し山岳救助隊を指揮して数多くの遭難救助に尽力された。その功績で警視総監賞など多くを受賞し、定年退職後も山岳指導員として救助隊を指導。退任後は支部の登山教室などで講演演を聞かれた人が多いと思う。奥多摩の巨星が逝ってしまった。東北人らしく真面目でお酒大好き。享年 76。寂しい限り。ご冥福をお祈りする。



冒険家の阿部^{まさたつ}雅龍さん (No. 16787) が 3 月 27 日ご逝去された。阿部さんは秋田大在学中に冒険活動を開始。南米大陸の自転車縦断やアマゾン川筏下り、2019 年には「メスナールート」の単独踏破によって南極点を踏んだ。2021 年に「白瀬ルート」に徒歩で挑戦したが天候により断念。翌年「植村直己冒険賞」受賞(会報 49 号)。昨年 8 月、南極点再挑戦の準備中に病気が発覚。さぞ無念だっただろう。多摩支部には 2021 年入会。人懐っこい笑顔が印象的。享年 41。合掌。

連絡先

石橋 學	gaku.1484072@gmail.com
鬼村 邦治	onimura@jcom.zaq.ne.jp
鎌塚 紀子	noricco730@gmail.com
清水 茂美	bunta.nanako.aitaiyo@gmail.com
富永 真由美	muget.m30@gmail.com
中原 三佐代	nakahara334ron@gmail.com
西山 さより	okabasaku3911@gmail.com

会務報告

幹事会議事録 (特記事項のない報告や重複は省略。支部 HP「会議案内」を参照)

出席：野口、近藤、柏木、村岡、石橋(學)、河野、川瀬、中村(敦)、石井、清水(茂)、岡田、富永、西山、(監事)竹中、小野寺
欠席：(161回)川瀬、富永(162回)富永(163回)柏木、小野寺
会場：立川市女性総合センターアイム第2学習室

■第161回幹事会■

日時：2024年1月16日(火) 18:30～21:00

〔野口支部長挨拶〕奥武蔵でオープンチャットで集った20名ほどの団体に遭遇した。あまり知らないメンバーの集まった登山に危うさを感じた。

〔報告事項〕

(近藤/事務局) 本部理事会で会費と準会員制度について討議。

3支部合同山行は埼玉支部主催で10/20「日和田山～物見山」。

(柏木/財務委員会) 精算書送付は植草氏とccにて真鍋氏にも。

(近藤/総務)「春の集い」は3/20、聖蹟桜ヶ丘「京王クラブ」。

新規定・要領は1/1より施行。規約の改定案は総会で決議。

(近藤/ICT) Google ワークスペースの利用講習会を検討。

(石橋/山行) 報告：定例：12/16市道山・醍醐丸(55号)、

1/13愛鷹山(p.6)育成山行検討。熊野古道集中に不参加と決議。

(中村/BC運営) 1/13「氏神様初詣」(p.3)。新委員に西村章氏。

(河野/登山PT) 第10期登山教室：12/16講座。12/23笹尾根(55

号)。第11期登山教室は定員20名で募集。会員は定員満たない

場合は可とすることを提案。河野が事務局とスタッフ辞退の

意向。近藤と今後の登山教室について1/22打合わせ予定。

(河野/野火止PT) 定例作業1/14、12/17。ロープ柵点検。

(石井/山岳古道PT)「日原秩父往還と奥多摩浅間みち」まとめ中。

「古甲州道」踏査終了。「武州御嶽山登拝道」p.3参照。「三山駈」と

「氷川道」と「金毘羅尾根」は調査継続。

〔協議事項〕(1)2024年度事業計画1/25までに提出すること。

(2)2024年度予算(柏木幹事)1/5試算の収支計算書の提示。

収入は前年比+48500円、支出は今回事務局と中級登山教室の

予算が計上されてトータル+98500円を承認する。(3)東京多

摩支部を東京支部にする構想の説明に本部から永田副会長、松

田理事、平川理事が参加。

〔提案〕首都圏(都区部)の新入会者がすぐに退会してしまう。

首都圏会員の止まりとして多摩支部のエリアを東京都都区部に広

げ、東京支部になることを検討してほしい。東京支部を設立す

るにはハードルが高いし、東京都に二つの支部があると棲み分

けがしにくい。多摩支部の負担増については、周辺支部が支援

をする。〔質疑応答〕(村岡)多摩支部には新入会のシニア会員

を斡旋、若年会員はユースを斡旋と解釈していいか。→(松田)

それでいい。(竹中・石井・清水)多摩支部も高齢化がすすんで

課題が多く、人材不足で余力はない。(柏木)首都圏会員を周

辺支部で吸収してはいいか。(近藤)システム再構築の必要が

ある。(松田)首都圏会員の退会減の対策を検討してほしい。

〔監事コメント〕(竹中)2024年度事業計画にもとづいて活発

に活動していただき支部活性化を期待する。

■第162回幹事会■

日時：2024年2月20日(火)18:35～20:30

〔野口支部長挨拶〕初級登山教室「石割山」、「入笠山」は雪があり充実し、中級プレスクールの「赤城山」、「黒檜山」も雪があり好天に恵まれた。

〔報告事項〕

(近藤/事務局) 橋本会長による多摩支部へのヒアリングがあり

野口支部長が対応。登山教室や予算の使い方について質問あり。

(柏木/財務) 2024年度予算案はを本部に1/17提出した。

(近藤/総務) 次年度は辻が幹事・委員長を担当。

(村岡/会報広報) 2/4会報55号の配送。「クロネコDM便(1

通¥80)」が利用不可になり、急遽郵送にした(1通¥140)。佐

川のゆうメール(1通¥115円)に変更予定だが単価が上がる。

(近藤/ICT) HP投稿は「募集」「報告」「お知らせ」にする。

(石橋/山行) 支部山行報告：定例：2/10北横岳(p.7)、平日：

1/25三ノ塔(p.4)、育成山行：2/3天覧山岩トレ(講師東秀訓氏)

6名参加しロープワーク。

(河野/自然保護) 春の自然観察会「片倉城跡公園」は4/4、「チヨ

ウの観察会」は5月第3週で検討。新入会に高木里佳氏。

(石井代理/安全対策) 安全登山講演会はヤマケイオンラインや

朝日新聞/多摩版で広報され、定員を超えたので締め切った。

(中村/BC) 8月「山の日」の展示について審議。

(河野/登山PT) 10期登山教室：1/20「石割山」(p.10)、2/17「入

笠山」(p.11)実施。11期初級登山教室の申込14名、会員1

名の申込は保留。河野事務局長退任のため打合わせ予定。

(河野/野火止PT) 定例作業1/30、2/11。ロープ柵修理が必要。

応急救命講習会1/26に3名。2/11野鳥観察会スタート。

(石井/山岳古道PT) 報告書本部提出は、「日原秩父往還と奥多

摩浅間みち」と「古甲州道」は4月、「武州御嶽山登拝道」は5

月、「鎌倉街道山の道」は6月で作業。2/2「武州御嶽山登拝道」、

「鎌倉街道山の道」2/14踏査。熊野は支部員の募集も検討。

〔協議事項〕

(1)東京多摩支部を東京支部に拡張する案を審議。(竹中)前

回もう少し具体的な資料をいただけたらと思っていたが大まかな

イメージ図しかないようだった。なぜ退会者が多いのか分析不

足など意見あり。(野口)拡張は否決として本部に報告する。

(2)春の集い(柏木)2/20申込入金31名。締切を延ばす。

(3)総会(近藤)5/3018:30～立川市女性総合センターにて。

資料印刷はプリントパックに依頼。(近藤)総会通知のはがき

については次回委員会で検討。→(野口)前回ははがきを見

ないと比較できずメールで送ってほしい。→(柏木)はがきの

「返信がない場合は総会決議事項を一任する」と明記すべき。

→(岡田)総会資料に会員名簿は配布されるのか。(近藤)委員

会名簿は配るが、名簿記載事項は限定となると思う。

(4)新入会員オリエンテーション準備。

(5)その他(柏木)会費未納の会員が退会し支払いなしなので

貸し倒れとして処理したい。→承認。(柏木)財務委員会の資料

は7年間保管しなければならず量もあるので奥多摩BCに置か

せてほしい。(中村)了解。

〔監事コメント〕(竹中)総会に向けて作業を進めてほしい。

(小野寺)おかしな気象だが体調調整して過ごしてほしい。

会 務 報 告

■第163回幹事会■

日時：2024年3月19日(火)18:45～21:20

〔野口支部長挨拶〕初級登山教室の三ツ峠山行で終了式が無事に行われた。10名が日本山岳会の入会希望を表明した。4/15評議委員会に幹事は原則参加すること。資料は3月末までに提出のこと。2/26本部の活性化委員会が開催され、多摩支部は東京支部へ拡張できない旨、報告した。

〔報告事項〕

(近藤/事務局)本部で首都圏対象のHPを立ち上げる。

(柏木/財務)2023年度支部会計報告は幹事会に提出し年度内に本部に提出する予定。会計監査は4/16に行う。

(近藤/総務)3/20春の集い(p.1)、4/6新入会者歓迎ハイキング実施した。5/30総会、6/27新入会員オリエンテーション準備。支部報封筒に支部規約・規定を同封。

(近藤/ICT)イベント受付担当者の個人情報が公開されており個人情報のセキュリティが確立していない。電話番号は削除。

(石橋/山行)山行報告：定例：2/18幕山(p.8)、3/3-2硫黄岳(p.9)、平日：2/15興因寺山(p.5)。育成山行4/27翠岩・大岩は中原が担当。小規模山行「鷹落場」中止。山行委員募集案内中。申込先に山行委員のメールアドレスは記載せず、申込はフォーマットのみにするべき。今後の検討事項。赤坂優貴・憲子、佐野、西中退任。来期の委員長は鬼村。

(河野/自然保護)春の自然観察はアサココ、東京新聞に掲載され、申込者37名。5/16「チョウの観察会」、6/6-7三ツ峠アツモリソウ保護活動検討。本部・山梨支部自然保護委員会との合同作業。10月委員会懇親山行「尾瀬の散策」予定。

(石井代理/安全対策)2/29安全登山講演会(p.2)、3/3上級救命講習(p.2)。登山計画書受理担当の増員を検討中。

(中村/BC)8月「山の日」に向け、「多摩百山」の資料とスケッチクラブ会員の作品を展示する。南氷川自治会の講演会依頼あり。次年度は各委員会に1回はBCを利用するように希望。来年度の委員長は中村。4/7奥多摩山開き。4/13ハイキング。

(河野/登山PT)10期登山教室：2/17「入笠山」(p.11)、

3/16-17「三ツ峠山」(p.12)。受講生1名が下期日程を全欠席したので受講料を返却。11期：応募者20名になったので、会員の3名はお断りした。事務局の幹事は近藤副支部長。

(河野/野火止PT)定例作業2/27、3/10。2/24保全地域活動ボランティア・サポーター交流会。毎月第2日曜に野鳥観察会。4/20春の観察会薬用植物園。4/23希少植物の花の数量調査。

(石井/山岳古道PT)「日原秩父往還と奥多摩浅間みち」の報告本部提出は4月期限、「古甲州道」は4月期限、「武州御嶽山登拝道」は4月期限、「鎌倉街道山の道」は6月期限で作業する。3月の活動報告「武州御嶽山登拝道」：御嶽山登拝道3ルート決定と確認。「鎌倉街道山の道」：東京側ルート踏査活動終了、埼玉県側ルート踏査活動4月予定。脇往還ルートは地元有識者の情報収集を実施予定。熊野古道集中山行は「中辺路コース」5/18山根・稲富参加。山岳古道調査交通費の補助金支給が決定。

〔協議事項〕

(1)立川市の会場利用について：登録団体が部屋をまた貸ししてはいけない、利用登録していない不特定多数のメンバーが使用すること、不特定多数の人からの受講料を徴収することも規約抵触の指摘を受けた。(清水)立川部会は立川市民名で登録しており、料金が割引されている。東京多摩支部として一般で借りると3倍弱高くなるが、一般の登録もしてみる。

(2)本部による首都圏会員のためのイベントへ協力について：(近藤)登山講習会を4月から始める。本部は首都圏会員の為の情報サイトを作る意向で、当支部など周辺5支部のイベントをサイトにアップし、首都圏会員が参加できる山行実施を希望。各支部はパワーもスタッフも足りないとする意見が多かった。

(3)山の日東京大会協賛イベントについて：審議した結果、多摩支部としては例年の行事は行おうが、山の日イベントの協賛事業は行わないことに決定。

(4)表彰について：(野口)表彰対象者の自薦、他薦はなかったため、規定から今年度の表彰は行わない。

〔監事コメント〕(竹中)多摩支部は2/20で創立14年になり、多摩サロンが懇談会を行った(p.4)。

2024年1月～3月

会員数 (総務委員会) (人数)

	総会員	通常会員	準会員	支部友
1月末日	305	247	55	3
2月末日	306	248	55	3
3月末日	291	234	54	3

会費入金状況 (財務委員会) (人数)

	入金者数	未納者数	備考
1月	300	10	307
2月	301	8	306
3月	303	7	306

会員移動 (総務委員会)

1月	入会	1名	森山京平(17197)
	退会	1名	下野武志(11166、ご逝去)
2月	入会	1名	飯田邦幸(12207)
3月	入会	1名	富山 裕(A0600)
	退会	16名	大倉昌身(5682)、大橋基光(10515)、石津谷悦郎(14793) 木谷嘉子(15248)、大崎樹雲(15557)、斉藤徹(16593) 佐野豪昭(16707)、中尾理恵(16734)、酒井真澄(16876) 赤坂優貴(16908)、赤坂憲子(16909)、野村雅子(16916) 中村智子(A0546)、笈邦男(13052、ご逝去) 金邦夫(14160、ご逝去)、阿部雅龍(16787、ご逝去)

BC利用状況 (BC運営委員会) (人数)

	宿 泊			日帰り・一時利用(休憩)		
	会員	会員外	合計	会員	会員外	合計
1月	0	0	4	16	0	16
2月	0	0	0	0	2	17
3月	0	0	0	0	0	0
R5年度合計	17	0	17	81	2	83

登山計画受理・検討件数 (安全対策委員会)

月	支部	同好会	個人	合計
10月	4	0	11	15
11月	8	0	3	11
12月	4	0	10	14
合計	16	0	24	40

カレンダー (2024年5月~8月)		
日程	山行	イベント(講座・講演)
5/11(土)	定例山行「畦ヶ丸」	
5/15(水)		11期登山教室講座「地図の読み方」
5/16(木)	自然保護委員会「チョウの観察会」	3期中級登山教室開講式・座学
5/18(土)~19(日)	120周年記念事業「熊野古道集中山行」	
5/23(木)	平日山行宝篋(ほうきょう)山(筑波山系)	
5/25(土)~26(日)		第37回全国支部懇談会(神奈川支部主催)
5/30(木)		支部総会@立川市女性総合センター18:30~
5/31(金)~6/2(日)	定例山行「大杉谷・大台ヶ原」(紀伊半島)	
6/1(土)	11期登山教室「御前山」	
6/5(水)		11期登山教室講座「山の天気」
6/8(土)~9(日)	定例山行「磐梯山」	
6/8(土)~9(日)	3期中級登山教室「瑞牆金峰山テント泊」	
6/13(木)	平日山行「生藤山」	
6/15(土)	定例山行「伊豆ヶ岳」(奥武蔵)	
6/16(日)~17(月)		自然保護委員会「三つ峠アツモリソウ保護活動」
6/22(土)	11期登山教室「大岳山」	(本部総会)
6/27(木)		新入会員オリエンテーション
7/4(木)	平日山行「大平山」(栃木市)	
7/6(土)	定例山行「霧ヶ峰」	
7/15(月/祝)	3期中級登山教室「奥多摩/沢登り」	
7/20(土)	11期登山教室「八子ヶ峰」	
7/20(土)~21(日)	定例山行「苗場山」	
8/10(土)		奥多摩BC「生ビールと花火鑑賞会」
8/17(土)	11期登山教室「大菩薩嶺」	
8/24(土)~25(日)	3期中級登山教室「鳳凰三山縦走」	
8/31(土)	定例山行「西沢溪谷」	



第12回 アツモリソウ保護活動 三つ峠山荘周辺で除草作業

主催：自然保護委員会
 日時：6月16日(日)~
 17日(月)
 集合：富士急河口湖駅 9:30
 参加費：宿泊 10000円
 日帰 1000円
 締切：6月10日(月)
 申込：河野
 kyuuji@mwd.biglobe.ne.jp



生ビールを呑んで 花火を観る会

日時：8月10日(土)
 15:00~
 会場：奥多摩BC
 会費：2000円(利用料込み)
 締切：8月5日(月)
 申込：石井 ☎ 090-5822-6860
 中村：
 amanatsu@da2.so-net.ne.jp



支部総会に参加しましょう

令和6年度東京多摩支部総会が5月30日(木)18時30分から立川市女性総合センターアイム5階第3学習室で開催されます。是非ご参加ください。ハガキによる返信は5月20日必着でお願いします。詳しくはHPをご覧ください。

◆◆編集後記◆◆
 街には賑わいが戻り、支部でも山行は増えたはずだが、不思議なことに登山届数は減っている。しっかり登山届をだして安全登山を心がけてほしい(野口)

SINCE 1975

mont·bell

ウェア・ギアに
遊び心もそろえて
お待ちしております

モンベル・ウェブサイト www.montbell.jp

株式会社 **モンベル** ☎ 0088-22-0031 ☎ 伊勢 06-6536-5740

「会報たま」56号

発行所 公益社団法人日本山岳会東京多摩支部
 〒188-0011 東京都西東京市田無町 4-11-11
 Email: izumi_noguchi@yahoo.co.jp
 会報広報委員会/村岡庸こ、野口いづみ、石川さとみ
 川崎真琴、吉川三鈴、嶋田恵美子、白川まり、祢津尚美
 協力/グリーン工房

登山用品の専門店 ☎0422-38-9234

山 幸

やまこう

靴の
無料診断
痛い! 当たる!
直します!
電話で
ご予約を

武蔵境駅北口 駅前ビル2階

営業時間 (水曜定休)
11:00AM~19:00PM

はじめて山に登る方も、ステップアップされる方も

山の安心、まずはここから

山岳遭難対策制度 ジョー

年間**2,200円**で、最大**550万円**の
 検索・救助活動を実施

お申し込みはお電話かWebで ☎ 0120-131-126